

Gard Insight

Gardが海上コンテナに関する新しい手引書を刊行

こちらは、英文記事「[Gard launches new Guidance on Freight Containers](#)」（2016年3月4日付）の和訳です。

Gard と海事サーベイヤーの Jeroen de Haas 氏との共著によるこの手引書は、コンテナ貨物の取り扱い実務と輸送に伴うリスクについて、知識を整理し、理解を深めるのに役立つ内容になっています。

背景

現在、国際貿易の約 9 割は外航船が担っており、消費財や半製品の大半は海上コンテナで輸送されています。この度、コンテナの登場から 60 年を迎えるに相応しい包括的なガイドを作成しました。この新しい手引書は、海上コンテナとその適切な取扱い、積み付け、固縛に関する情報と知識を求める人にとって座右の書になるものと期待しています。



新刊書『Gard Guidance on Freight Containers』の対象読者

本書は、海上コンテナ輸送に携わる人はもちろん、サーベイヤー、弁護士、保険会社、専門機関、学生の皆さんにも興味のある内容になっていますが、主として、日常業務の一環としてコンテナを取り扱っている船員向けに書かれています。この手引書の目的は、船上と陸上の両方のコンテナ作業に伴うリスクを船員が深く理解し、適切に管理できるよう、状況に応じた実践的な支援を提供することです。

本書の内容

本書は、複合一貫輸送とコンテナ取扱いについて、作業の実際、地域差、基礎技術などを広く網羅しています。多様なコンテナ作業の中で生じる多くの複雑な問題をすべて取り上げることは不可能ですが、コンテナ輸送において発生することの多いリスクはカバーしていると思います。

本書の冒頭では、コンテナ輸送の発展の歴史と、8 世代にわたるコンテナ船の進化を概観します。貨物輸送におけるコンテナの利用が始まって 60 年になり、その間に船舶の設計も、ばら積み船やタンカーを転用して 58 個のトレーラー／コンテナを運ぶものから、20 フィートコンテナ約 2 万個を運搬する超大型コンテナ船へと進化しました。

コンテナの大きな特徴は、途中で貨物の中身を触らずとも複数の輸送手段で輸送できることです。コンテナは長距離輸送に使用されることが多く、通常は、海上輸送だけでなくバージ、鉄道、道路輸送など利用することになります。そのため、本書では、輸送網とコンテナの様々な輸送手段の解説に多くのページを割いています。

コンテナターミナルは、コンテナ輸送の要となる場所です。第 4 章では、最新のコンテナターミナルにおける集積、搬出、移動について、また、保管、輸送、積み付け計画の難しい点について解説します。

第 5 章では、船上におけるコンテナ作業とリスクについて解説します。船員の主な役割は、船舶を安全に（そしてスケジュールどおりに）、港から港へと航海させることです。ここでは、コンテナ船に関わる事故の原因についても取り上げます。

第 6 章では、コンテナの設計、保守、輸送に関する規制、基準、要件の概要を取り上げます。

最後にコンテナ保険に関するセクションを設け、担保範囲、限度額、免責事項などについて説明します。Gard は数年前から、コンテナそのものの損害・損失、さらに共同海損分担金をてん補するモノ保険としてのコンテナ貨物海上保険を提供しています。詳しくは[こちら](#)をご覧ください（英文です）。

本手引書は、全編にわたってイラスト、写真、事例をふんだんに使用しています。本書のご注文は Gard にて承りますが、オンラインでも同内容を提供しております。[こちら](#)をご覧ください。（その他にも Gard の出版物は[こちら](#)からお読み頂けます。）

謝辞

本書の刊行にあたり、筆頭著者である Jeroen de Haas 氏に尽力いただきました。同氏は本書について、「ここ 20 年でコンテナ船の巨大化が進み、それに伴いコンテナターミナルの運用や物流チェーン等の要素も変化しており、知識の習得、事故防止、リスク管理の重要性が高まっています。読者に有益で明快でわかりやすいと感じていただければ、この上ない喜びです。」と語っていました。



同氏は [BMT Surveys](#) (Rotterdam) BV の Managing Director です。国際的サーベイ事業に 25 年以上携わり、安全確実なコンテナ輸送について深い見識を備えています。さらに、甲板部士官と船舶機関士の資格を保有し、アントワープ大学で海洋科学の学位を取得しています。

この Gard Insight の記事に関する質問やご意見は、[ガードジャパン株式会社](#)までお送りください。